

今、振り返る教師としての原点

**私を育てた
あの時代、あの出会い**

いつも近くにいた恩師



又吉孝一先生
は母校の沖縄県立那覇高校在学中の恩師です。

当時、既にグループ学習を授業に取り入れたり、誤答の解き直しノートを生徒に作成させて自立的な学習を支援したりと、後年、同じ数学教師となる私の手本となる指導を数々行っていました。しかし、何より私が又吉先生から学んだのは、教師としての視野の持ち方でした。

那覇高校を卒業して又吉先生に再会したのは、5年後の初任者研修でした。数学の面白さを生徒と味わいたいと願って教師になった私ですが、現実には、

学校を越えて県全体で 高め合う大切さを学んだ

沖縄県立総合教育センター 伊志嶺 嘉典 ISHIMINE YOSHINORI

進路実現のため、生徒一人ひとりに全力で向き合う。これは、まさに教師の日常である。そして、その積み重ねこそが次代の社会づくりへとつながっていく。俯瞰的な視点を持つことの大切さに気付いた教師が、先輩からの学びを語る。

進路多様校の2年生のクラス担任として、生徒を学習に向かわせるために奔走していました。

生徒を少しでも理解しようと家庭訪問を続け、授業力を高めるために教科を問わず先輩方の授業を見学していたその頃、県の指導主事となった又吉先生に学ぶ機会を得たのです。

生徒を理解するために面談を繰り返す。そして、将来に目を向けさせることで生徒の力を引き出す……進路指導の根幹となる考え方と指導方法を学ぶことで、私は又吉先生に背中を押していただいたように思います。

その後私は離島の高校、県内有数の進学校と、環境の異なる高校に勤務しました。又吉先生には指導主事としてはもちろん、

ん、他校の教頭、校長になっても、折に触れてアドバイスをいただきました。

又吉先生は県外の先進校を精力的に訪問されていました。『沖縄県全体の教育力を高めた』と、そこで学んだ指導、更にそれを実践した経験を、他校の教師にも惜しみなく全て話してくださいました。実際、又吉先生の紹介した取り組みで県内に広まり、今も続いているものはいくつもあります。

例えば、私が「日々課題」と呼んでいる取り組みもその一つです。毎日、生徒は始業前に問題を解き、1年の積み重ねを記録としてつづります。生徒にとっては弱点を発見したり自信を高めたりするツールになりま

すし、教師にとっては生徒が問題に取り組む様子を観察し、言葉を変えていく生徒把握の機会になっているのです。「短い時間でもいいから、生徒の言葉に耳を傾けなさい」と口酸っぱく教えていただいた私が、大切に行っている指導の一つです。

県全体のために

又吉先生が退職された今でもよく連絡し、いろいろなことを相談しています。私は今年から研究主事として教職経験者研修を担当することになりました。先日、又吉先生に電話をしたところ、その3日後には資料まで作成し、私に会ってくださいました。資料を同僚に見せると、「私もぜひ活用したい」と言わ

先輩教師の言葉

**沖縄県のため
自分に出来ることを
続けていきたい**

元・沖縄県立総合教育センター所長
MATAYOSHI TAKAKAZU 又吉孝一



沖縄県の高
校生は一言で
言えば「のんびり」。那覇

高校のような伝統校の生徒であっても、「大学入試は全国の高校生との競争だ」という意識は乏しかったように思います。そして、それは生徒だけでなく、教師にもいえました。生徒の視野を広げ、目標を高く設定させ、全国の難関大へ送り出そうという気概と方策がもつ必要でした。

私が九州をはじめ、全国の先進校を訪問し、その取り組みを紹介したのも、県内の先生方に刺激を与えたかったからです。もちろん、私が刺激をもらうこともたくさんありました。皆、沖縄県全体の学力を底上げしたいと思っていたのです。全国の取り組みを

●左 またよし・たかかず 数学科。琉球政府立(当時)八重山高校を初任に、県内の各校の教壇に立つ。首里高校校長、沖縄県立総合教育センター所長などを歴任。現在、琉球大にて非常勤講師。

撮影●那覇高校にて

●右 いしみね・よしのり 数学科。初任は大平高校(現在は陽明高校に統合)。その後、宮古高校、向陽高校、那覇国際高校を経て、11年より沖縄県立総合教育センターに勤務。

れたので、コピーを渡しました。又吉先生の経験が土台にある資料ですから、これほど信頼できるものはありません。

これまで又吉先生から「こうしなさい」と答えを提示されることはありませんでした。いろんな選択肢を私の前に並べて、「どれも可能性がある。きみはどれを選ぶ?」と私に考えさせるのです。

振り返れば、他県の取り組みを私たちに紹介するときも「いろんなやり方があるのだから、学校の状況を踏まえて、自分たちに合ったものを選択すれば良い」と話されていました。個々の教師が成長し、考えの幅を広げることを又吉先生はとても大切にしていたのです。

振り返れば、他県の取り組みを私たちに紹介するときも「いろんなやり方があるのだから、学校の状況を踏まえて、自分たちに合ったものを選択すれば良い」と話されていました。個々の教師が成長し、考えの幅を広げることを又吉先生はとても大切にしていたのです。

目の前の生徒のために、そして沖縄県全体のために。教師として

してのキャリアステージに見合う視点を、私は何年もかけて又吉先生に教えてもらいました。そして今、きっと私は、又吉先生の思いを受け継ぐ番になったのだと思います。

近年、沖縄県では国公立大をはじめ大学進学者数が増加しています。しかし、生徒は今も沖縄県が抱える経済的な厳しさの中にいます。一人の教師の力だけではどうにもならないことも確かにありますが、それでも私たちは最大限に生徒を支援しなければなりません。

沖縄県の置かれている状況を打破する人材、地域を活性化してくれる人材を育てていくために、又吉先生をはじめ先輩、同僚、全ての教師が学校を越えて一丸となる。そのための支援をしていきたいと思っています。

共に学び、各校の状況に合わせて出来ることから無理せずやっていこう。ただし、いったんやると決めたら、妥協はしない。そういう思いでした。

私が伊志嶺先生たちに伝えてきたことは、自分が始めた取り組みだけではありません。先輩たちに教わってきたこともたくさんあります。先輩に多くのアドバイスをもらって、私は成長できました。だから自分も同じことをしているだけです。

私たちの仕事は、「こうすればうまくいく」という正解が分からないことがたくさんあります。本当にこれで良いのか、考える不安になることばかりです。それでも伊志嶺先生ら先輩の先生たちは沖縄県のために頑張っている。そんな姿を見ると出来る限り応援したいと思うのです。

既に退職して5年が経ちました。現在も多くの後輩たちが現場で活躍しています。私が役に立っていることがあればいつでも声を掛けてほしいと思います。沖縄県のため、自分出来ることを続けていく。そうすることで私は、多くを教えてくださった全国の先進校の厚意に報いることが出来ると思っています。